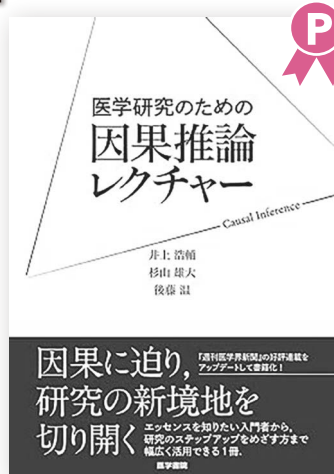




医学研究のための 因果推論レクチャー

井上浩輔、杉山雄大、後藤温＝著
定価 4,400 円／A5 判・192 頁／医学書院／2024

『週刊医学界新聞』の好評連載に大幅加筆をして待望の書籍化！原因と結果との関係を統計学的に推定するデータサイエンスの手法である因果推論を、医学研究にどう用いればよいのか。本書では、因果推論のアプローチを、研究の「問い」に応じた手法ごとに解説。適切なリサーチクエスションを立て、実現可能性の高いデータソースを探し、因果推論を研究に適用するための実践的なプロセスを示す。入門者からステップアップを図りたい方まで幅広く活用できる 1 冊。



発達障害 Q&A 臨床の疑問に答える 104 問

金生由紀子＝編
今村 明、辻井農重＝編集協力
定価 6,600 円／B5 判・368 頁／医学書院／2024

発売直後から圧倒的な支持を得た『精神医学』誌 2023 年 5 月増大号特集「いま、知っておきたい発達障害 Q&A 98」が待望の書籍化。発達障害に携わる医療者が日常診療で困っていること、わからないことを Q&A 形式で解説する。実臨床に沿った質問に、日本のエキスパートが勢ぞろいで応える！精神科領域の医療職(精神科医、心理職、OT)をはじめ、小児科医、産業医を務める内科医まで、幅広い読者の知りたかったことがこの 1 冊に。



ジェネラリストのための内科診断リファレンス 第 2 版

酒見英太＝監修
上田剛士＝著
定価 11,000 円／B5 判・1,200 頁／医学書院／2024

10 年の歳月をかけ、何と 3 万本以上もの論文に目を通し徹底的な文献吟味を経て、遂に完成したまさに待望の改訂版。今版では、外部リンク(QRコード/ハイパーリンク)を採用し、論文などに掲載されている教育的な画像や動画にアクセスできるようにした。また指定難病の診断基準・調査票へのリンクも掲載。若手医師、総合診療医のみならず、全ての内科医にとって臨床の現場で必ずや役立つ 1 冊。医学生にもおすすめ。

本欄で紹介した書籍は、読者アンケート(p.737)にご回答いただいた方に、抽選でプレゼントいたします。



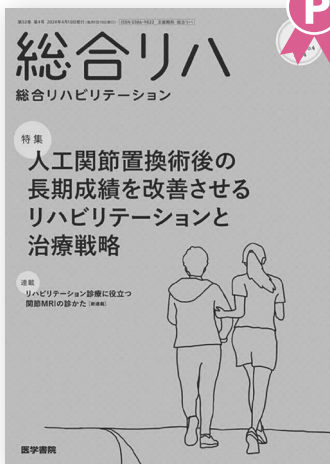
『呼吸器ジャーナル』2024年5月号 (Vol.72 No.2)

気管支拡張症 温故知新 注目され始めた一大カテゴリー

長谷川直樹＝企画

定価 4,510 円／A4 変判・152 頁／医学書院／2024

気管支拡張症は、何らかの原因により惹起された慢性持続的な気道炎症の結果、気道上皮細胞の線毛機能障害によるクリアランス機能の低下と、気道壁の支持組織の破壊により気道内径の拡張を呈する形態学的異常を基軸とする疾患である。特発性からさまざまな基礎疾患に伴うものまで、その背景は多様である。本特集では気管支拡張症の疫学と診断、画像所見をはじめ、薬物療法から理学療法まで治療法を網羅した。

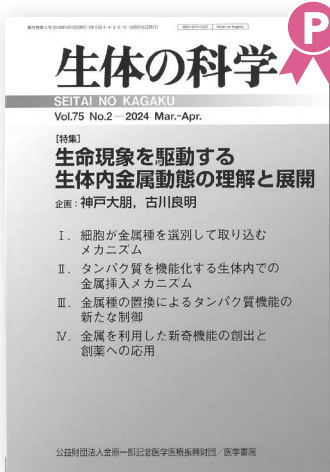


『総合リハビリテーション』2024年4月号 (Vol.52 No.4)

人工関節置換術後の長期成績を改善させる リハビリテーションと治療戦略

定価 2,640 円／B5 判・112 頁／医学書院／2024

人工関節手術の進歩に伴い、その適応は拡大し、術後長期的に良好な経過を得ることが求められるようになっていく。一方、人工関節置換術後 10 年、20 年、それ以上の活動性を維持するために、術後どのようなリハビリテーション治療や生活指導をするのがよいかについては、臨床場面で迷うことも多いと考えられる。そこで本特集では、特に長期成績改善に向けての術式の工夫や、急性期あるいは生活期にどのようなリハビリテーション治療や生活指導を行うことが必要とされるかについて、エキスパートに解説してもらった。



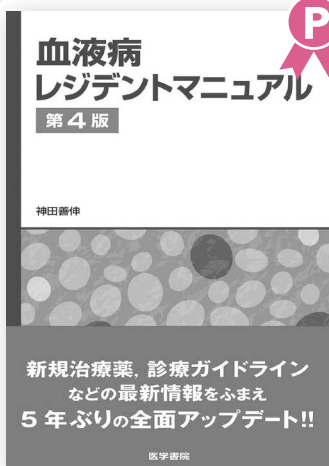
『生体の科学』2024年4月号 (Vol.75 No.2)

生命現象を駆動する生体内金属動態の 理解と展開

神戸大朋、古川良明＝企画

定価 1,870 円／B5 判・96 頁／医学書院／2024

酸素運搬、薬物代謝、光合成など、生命機能を実現する多くの化学反応には、鉄や亜鉛、銅といった微量に存在する金属が必要であることはよく知られている。しかし、金属結合蛋白質として研究されてきた蛋白質はごく少数で、ほとんどの蛋白質は、金属との結合は意識されずにその機能が議論されている。生命金属研究は、さまざまな生命現象を真に理解するには避けて通ることのできない普遍的な問いへの挑戦であり、今まさに進展させるべき研究領域となっている。本特集ではそうした観点から、各分野のエキスパートに論考を寄せてもらった。



血液病レジデントマニュアル 第4版

神田善伸＝著

定価 4,950 円／B6 変判・516 頁／医学書院／2024

研修医、内科医、血液専門医を目指す医師に向けて、血液領域の知識を1冊にまとめた定評あるマニュアルが5年ぶりに改訂。新版では、新規治療薬、診断基準や診療ガイドラインの改訂をふまえ全面的に記載内容を見直した。これまで同様、単独執筆。客観的データを基本としながらも、著者の見解がちりばめられており、生成AIの進歩が著しい時代とはいえ、今しばらくは本書を上回るマニュアルは出てこないであろう。医療費についても記載しており、医療資源に対する意識も高めていただきたい。



『medicina』2024年4月号 (Vol.61 No.5)

腎機能を考慮した内科疾患の診療

杉本俊郎＝企画

定価 2,970 円／B5 判・200 頁／医学書院／2024

薬物療法が中心である内科診療において、腎臓と薬物療法の関係を理解することが必要である。そこで本特集では、①腎機能が病態・治療に関係する代表的な内科疾患、さらに、②薬物療法が腎機能の影響を受けやすい内科疾患、③腎機能が治療法の選択に大きく関与する疾患などを取り上げ、各領域の専門医に解説いただいた。

「腎機能の悪化さえなければ、問題なく対応可能なのに…」「治療により腎機能が悪化しなければ、うまく対応できたのに…」「腎機能を把握しないと治療法が選択できない…」など、日常診療での悩みの解決の糸口がここにある！